

「海のあるスイス」先進地調査団等派遣
概 要 報 告

平成29年8月7日（月）～8月13日（日）

富山県

1 日程

月日	日 程	都市等
8月7日(月)	・富山駅→東京駅 ・羽田空港→ 機中泊	富山、東京
8月8日(火)	・→パリ空港 ①マルモッタン・モネ美術館視察 ②メイラ湾クラブ理事長等との面談・昼食懇談 ③伝統工芸品セレクトショップ「メゾン・ワ」視察 【知事団】 ・パリ空港→ミュールーズ空港 バーゼル泊 【観光団】 ・パリ空港→チューリッヒ空港 チューリッヒ泊	パリ(仏) " " バーゼル (スイ) チューリッヒ (スイ)
8月9日(水)	【知事団】 ①バーゼル大学副学長等との懇談 ②バーゼル・シュタット州及びバーゼル・ラントシャフト 両州政府首脳との懇談 ・バーゼル→ツェルマット ツェルマット泊 【観光団】 ・チューリッヒ→ツェルマット(氷河列車) ・山田桂一郎氏との夕食懇談 ツェルマット泊	バーゼル ツェルマット (スイ) ツェルマット
8月10日(木)	①ツェルマット観光局長との意見交換 ②ブルガージェマインデ(地域共同体)幹部との意見交換 ③ツェルマット視察 ④ツェルマット主催の歓迎レセプション ツェルマット泊	ツェルマット " " "
8月11日(金)	①ツェルマット視察 ②モンテビアンコロープウェイ(株)社長等との夕食懇談 シャモニー泊	ツェルマット ケルマイール (伊) シャモニー(仏)
8月12日(土)	①スカイウェイ・モンテ・ビアンコ等視察 ・シャモニー→ジュネーブ空港→パリ空港→ 機中泊	シャモニー ケルマイール
8月13日(日)	・→羽田空港→富山空港	東京、富山

2 参加者名簿

(敬称略)

区分	氏名	所属・役職
団長	いしい たかかず 石井 隆一	富山県知事
副団長	たかぎ しげお 高木 繁雄	(公社) とやま観光推進機構会長
団員	こばし かずし 小橋 一志	黒部峡谷鉄道(株)取締役社長
	まつばら よしたか 松原 吉隆	(公財) 高岡市観光協会会員 (未来観光戦略会議 会長 北陸経済連合会理事 広域観光推進委員会委員長)
	えいさき やすお 永崎 泰雄	立山黒部貫光(株)専務取締役営業推進部長
	かなもり しんいちろう 金森 伸一朗	立山黒部貫光(株)海外営業センター所長
	かみむら ゆみ 上村 ゆみ	東亜薬品株式会社常勤監査役
	みずおち ひとし 水落 仁	(公社) とやま観光推進機構事務局長
	なかい としろう 中井 敏郎	(一社) 富山県薬業連合会長
	たかつ きよし 高津 聖志	薬事研究所長
コーディネーター	やまだ けいいちろう 山田 桂一郎	JTIC. SWISS代表
主な随員	くらぼり ゆういち 蔵堀 祐一	観光・交通・地域振興局長 【秘書長】
	すなはら けんじ 砂原 賢司	観光・交通・地域振興局次長 (観光振興室長)
	なかたに あきひろ 中谷 明博	観光・交通・地域振興局観光振興室観光戦略課長
	ふくしま きよし 福島 潔	観光・交通・地域振興局観光振興室美しい富山湾活用・保全課長
	たなか たつや 田中 達也	厚生部くすり政策課長

※並びは、所属五十音順

3 活動概要

8月8日(火) パリ/フランス

(1) 木寺大使との面会

ア 日時 平成29年8月8日(火) 9:10~9:30
イ 場所 パリ・マリオット・ホテル・アンバサダー
ウ 県側 石井知事、蔵堀県観光・交通・地域振興局長、中谷観光戦略課長
エ 相手方 木寺昌人 フランス共和国駐劬特命全権大使、谷 在フランス日本国大使館一等書記官

オ 内容

- まず、木寺大使から、今春に行われたフランス大統領選の結果をはじめとするフランス情勢について説明があった。具体的には、
 - ① 今春に行われた大統領選挙の結果、中道左派のマクロン候補が極右政党のル・ペン候補を抑えて当選(第2回投票で2,074万票、得票率66.1%)し、大統領に就任したこと、
 - ② マクロン大統領就任の翌月(6月)に行われた国民議会選挙においても、同氏が率いる「共和国前進」が一気に単独過半数(314議席、総議席数の54.4%、民主運動を含めた与党361議席は総議席数の62.6%)を確保し、政権基盤をより強固にしたこと、
 - ③ 今後は、大統領選挙における極右政党(ル・ペン候補1,064万票)の中心的な支持層であった若年層や低所得者層の民意をどれだけ反映させることができるかが、政権運営の鍵になること、
 - ④ マクロン大統領は就任直後にドイツを訪問し、メルケル首相との首脳会談を行ったが、国民投票によってEUからの離脱を決めたイギリスが影響力を低下させる中、EUの中心的国家であるフランスとドイツの国際的な存在感が増しており、両国との連携が日本としても今後一層重要になってくることなどについて説明いただいた。

- 次に、石井知事から、木寺大使に対し、2年前に北京でお会いし中国の諸情況のブリーフィングをいただいて以来の再会であり、早朝、ホテルまでご来訪いただいたこと、またフランスの諸情況のブリーフィングをいただいたことにも謝意を表明した。また、今回の訪欧の主な目的は、(1)国の観光立国の方針を活かして、富山県は、この10年余、国際的な観光地となりつつある立山黒部を真の世界的ブランドにしたいと取り組んできており、その参考にするため世界の山岳観光の先進地であるスイスのツェルマット等を訪問することとしたこと、(2)2015年の富山県の医薬品生産額は10年前の2.8倍に成長し、都道府県別で初の1位になったところであるが、今後の更なる飛躍に向けた交流促進のため、8年前に連携協定(宣言)を結んだ世界の薬都といわれるバーゼルを訪問することとしたこと、(3)富山湾は3年前に「世界で最も美しい湾クラブ」への加盟が承認されたことを機会に環境保全や利活用のための様々な取り組みを行っ

ているが、今回、パリにおいて同クラブ理事長らと面会し、2019年の同クラブ総会の富山県への誘致に向け働きかけを行うこととしていること、の3つであることをお話ししました。

また、(3)については、「世界で最も美しい湾クラブ」事務局がフランスのヴァンヌ市に設置されていること、2019年の総会の開催地は来年4月のパリでの総会で決定されるとのことであり、在フランス日本大使館としても応援していただければ有難い、と要請した。

- 木寺大使からは、富山県をはじめ地方自治体のフランスなど欧州との国際交流等の取組みは大変心強く、大使館としても応援していきたい、との回答をいただいた。



木寺大使との面会の様子(1)



木寺大使との面会の様子(2)

(2) マルモッタン・モネ美術館視察

ア 日時 平成29年8月8日(火) 10:00~11:00

イ 場所 マルモッタン・モネ美術館

ウ 参加者 石井知事、高木会長、小橋黒部峡谷鉄道社長ほか県内観光事業者、
蔵堀県観光・交通・地域振興局長ほか県随員

エ 内容

○ 「世界で最も美しい湾クラブ」のメイラ理事長等との面談前に、約1時間、現地ガイドの案内・説明により、マルモッタン・モネ美術館を視察した。同館は、ブローニュの森のほど近くに位置し、クロード・モネをはじめとする印象派画家の作品を多く集めた美術館として知られている。

○ 同館では、クロード・モネの代表作の一つであり「印象派」の語源にもなった「印象、日の出」や、「睡蓮」作品群に加え、ルノワール、モリゾ、ピサロ、シスレーなど日本でも非常に人気の高い印象派画家の作品など、多くの素晴らしい作品を鑑賞することができたほか、ミュージアムショップの展示・販売品なども含め、今後の富山県美術館などの運営や企画展等の開催に参考となる貴重な機会となった。



マルモッタン・モネ美術館

(3) 「世界で最も美しい湾クラブ」理事長等との面談及び昼食懇談概要

ア 日 時 平成29年8月8日(火) 11:30~13:20
イ 場 所 インターコンチネンタル・パリ・ル・グラン ホテル
ウ 県 側 石井知事、高木会長、蔵堀県観光・交通・地域振興局長ほか県随員
エ 相手方 メイラ湾クラブ理事長、ボダード湾クラブ事務局長ほか
オ 内 容

○石井知事から、冒頭、メイラ理事長とボダード事務局長に対し、今回の訪欧の機会に、パリで懇談したいとの要請を、ご多用の中、また夏のバカンスの時期にお受けいただいたことに、感謝の意を表した。

○また、メイラ理事長とは、2014年10月、富山湾の湾クラブ加盟が全会一致で認められた、韓国・麗水(ヨス)で開催されたクラブ総会以来の再会となるほか、ボダード事務局長とは、同じく麗水(ヨス)でのクラブ総会でお会いした後、2015年10月に本県で開催された「全国豊かな海づくり大会」で来県いただいており、お会いするのは今回で3度目となるが、こうしてお二人に再びお目にかかれたことを大変うれしく思っていると申し上げた。

○メイラ理事長の地元のセトゥーバル湾(ポルトガル)は、風光明媚な湾であり、ボダード事務局長の地元のモルビアン湾(フランス)も、次回の総会開催予定地で、美しさで名高い湾と聞いているが、富山湾もこうした「世界で最も美しい湾」のメンバーに加えてもらい、大変光栄に思っている。

○湾クラブへの加盟後、富山県では、世界水準の観光資源である「立山黒部アルペンルート」に加え、「富山湾」を重要な観光資源と位置づける一方、「自然環境や景観を保全するだけでなく、観光資源として活かすことで観光振興や地域経済の活性化に貢献する」という湾クラブの活動理念にも則り、富山湾の魅力のブラッシュアップを図るとともに、標高3,000mの立山連峰から海底1,000mの富山湾までを一体として、高低差4,000mの魅力を経路的に発信し、「選ばれる観光地 富山~海のあるスイス~」をめざし、観光振興に積極的に取り組んでいる。

本日は、短い時間ではあるが、皆さんに改めて富山湾の多彩な魅力や様々な活用・保全の取組みをご紹介し、2019年における湾クラブの総会の候補地としてアピールさせていただくとともに、今後の誘致活動について相談したいとご挨拶した。

○メイラ理事長からは、

- ①石井知事には、お忙しいところ、訪欧日程を調整のうえ、わざわざ懇談の機会を設けていただき、感謝申し上げます
- ②3年前の富山湾の湾クラブへの加盟は自分もうれしく思っているし、その後の湾クラブの活動理念に沿った取組みにも感謝している
- ③来年の4月に延期(当初今年9月開催予定)となった湾クラブのフランス総会や、その後の来年9月から10月に開催予定の台湾での総会には、ぜひ

石井知事に参加してほしい

- ④なお、かねてより誘致の要請があった総会の開催については、先頃開催した委員会において、2019年の総会は日本の富山県で開催することを内定したと挨拶があった。

○2019年の湾クラブ総会の開催地については、次回のフランス総会において候補湾がプレゼンテーションを行い、競合した場合、投票により決定すると聞いていたこともあり、メイラ理事長からこの段階で富山開催で内定との発言をいただいたことは想定外であったが、同理事長からは、富山県は総会誘致に向けた熱意が非常に感じられ、委員会としてはその熱意を汲み取って富山湾を2019年の開催地として内定したとのことであった。ただ、次回のフランス総会でプレゼンテーションを行ってもらったうえで、正式に決定するとのことであった。

○石井知事から、2019年総会の富山開催の内定についてお礼を申し上げた。また、

①富山県では、一昨年3月、北陸新幹線が開業し、東京と2時間余でつながったこと等により、観光振興、まちづくり、企業立地などの面で大きな成果が生じていること

②一昨年10月には、天皇皇后両陛下にご来県いただき、グル名誉理事長やボダード事務局長にも参加いただいた「全国豊かな海づくり大会」、昨年5月には「G7富山環境大臣会合」、今年5月にも天皇皇后両陛下をお迎えした「全国植樹祭」など、全国的行事や国際会議が続けて開催され、各々高い評価をいただいたこと

もあり、富山湾が湾クラブ加盟5周年の節目の年を迎える2019年における総会開催地として富山県が立候補させていただいた旨を申し上げた。



左からボダード事務局長、メイラ理事長、サントス理事長秘書



右から高木会長、石井知事、グラセ国際交流員

○その後の昼食懇談では、石井知事からメイラ理事長とボダード事務局長に対し、

①富山湾のある富山県は日本の本州の中央部に位置し、交通アクセスに優れていること

②標高3,000mの立山連峰から海底1,000mの富山湾まで、高低差4,000mのダイナミックな地形を有しており、海越しに3,000m級の山々が望める富山湾の景観は類まれで、大変美しく魅力的であること

- ③「蜃気楼」、「埋没林」、「ホタルイカ群遊海面」など、珍しい生態系や自然現象がいくつも見られること
- ④「天然の生簀」と呼ばれるほどに水産資源が豊富で、富山湾で獲れた海の幸は新鮮で、とても美味しい。特に、ブリやホタルイカ、シロエビ、ベニズワイガニに加え、最近、富山湾で獲れた魚だけで握る、富山でしか味わえない「富山湾鮓」が、富山県を代表する「食の魅力」となっていること
- ⑤昨年来、「ミシュラン」の三つ星が北陸で唯一富山県の和食料理店（山崎）に付与されたこと、「ゴ・エ・ミヨ」が東京と北陸を対象としたガイドブックで、今年のシェフ賞に選定された3人のシェフのうち1人は富山のレヴォの谷口シェフであること（他の2人は東京のシェフのうち1人はフランス人）など、富山湾と富山県の魅力を改めて説明した。



メイラ理事長らとの面談の様子



メイラ理事長から記念品をいただく

- さらに、2014年10月の湾クラブ加盟後は、その加盟効果を最大限に活かし、観光振興や地域活性化に活かすため、様々な取組みを進めており、
- ①富山湾周辺の魅力向上については、20万トン超級の大型クルーズ客船の寄港に対応した伏木富山港の整備をはじめ、日本海側最大級のマリナーの整備推進に取り組んでいること
 - ②また、富山湾沿いに、サイクリングコースや休憩スポットを整備するとともに、このコースを活用し、富山湾の絶景や食を満喫できるサイクリング大会を開催するなど、富山湾岸サイクリング環境の充実を図っていること
 - ③さらには、今年で3年連続、日本で最大規模のヨットレース（タモリカップ）を誘致し開催したほか、ヨット乗船体験、フライボード、ダイビングや湾岸クルージングの観光商品化も進めていること
 - ④また、富山湾の魅力や環境を守るため、里山林の整備や海岸林の保全など豊かな海を育むための森づくりに積極的に取り組んでいるほか、国連機関や北東アジア地域の自治体と連携し、富山湾の保全にも取り組んでいること
 - ⑤湾クラブ加盟後設立された、民間の応援組織「美しい富山湾クラブ」においても、富山湾の活用・保全の様々な取組みを行っていただいていること
 - ⑥昨年7月には、湾岸自治体や民間組織による『世界で最も美しい富山湾』活用・保全推進会議を設置し、官民連携や地域間連携による取組みを加速化するための体制を整えたこと
- など、官民を挙げて富山湾の魅力のブラッシュアップや活用・保全に積極的に取り組んでいることなどを説明した。

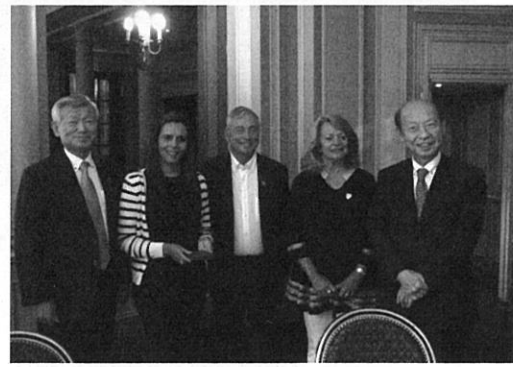
○さらには、

- ①会場候補地としては、本県の中心部にある富山国際会議場を考えているが、国際会議に対応した施設環境が充実していることに加え、ホテルと隣接しているなど利便性が高いほか、空港や駅からのアクセスにも優れていること
- ②誘致が叶えば、世界各地の加盟湾の方々を本県にお迎えし、「海王丸パーク」などの富山湾岸はもちろん、世界的な山岳観光ルートである「立山黒部アルペンルート」や「黒部峡谷」などの美しい自然景観や、世界遺産「五箇山合掌造り集落」や「国宝瑞龍寺」などの歴史文化のほか、「富岩運河環水公園」や「富山県美術館」などを巡るほか、日本らしい伝統芸能・文化等の体験を通じて、富山県の多彩な魅力を体感していただく魅力あるエクスカージョンも企画したいと考えていること

などをアピールした。



知事からメイラ理事長へ記念品贈呈



メイラ理事長らとの記念撮影

○メイラ理事長からは、

- ①富山湾の活用・保全の取組みは素晴らしい、との発言をいただくとともに、
- ②湾クラブとしては、今後とも活動理念に則って「湾の保全と振興」を両立させる取組みを進めていきたいこと
- ③また、世界の地域ごとの加盟数を制限すべきとの意見もあるが、当面、制限しないこととしたこと
- ④湾を愛する人々の相互理解を深め、人種や政治体制に関係なく活動を行っていきたいこと

など、湾クラブの今後の活動方針についての発言があり、感銘を受けた。

○とやま観光推進機構の高木会長から、観光推進機構としても、また、「美しい富山湾クラブ」の副会長の立場からも、富山湾の保全と活用、2019年の総会の盛り上げなどに経済界として役割を担っていきたいとお話をいただいた。

○終わりに、石井知事から、2019年の湾クラブ総会開催地を、「富山湾」に内定したと表明いただいたことに感謝を申し上げるとともに、来年4月の湾クラブ・フランス総会には、できれば自ら出席し、プレゼンテーションを行う方向で日程調整し、皆様とここフランスで再会したい、その際には、総会の富山開催を、是非正式にご決定いただきたいとご挨拶をしました。

(4) 伝統工芸品セレクトショップ「メゾン・ワ」視察

ア 日時 平成29年8月8日(火) 13:45~14:10

イ 場所 maison wa (メゾン・ワ)

ウ 県側 石井知事、高木会長、小橋黒部峡谷鉄道社長ほか県内観光事業者、蔵堀
県観光・交通・地域振興局長ほか県随員

エ 相手方 しおかわ よしあき
塩川 嘉章 株式会社エニス代表取締役社長

オ 内容

○ 冒頭、塩川氏から「メゾン・ワ」について説明があり、

- ① 日本の伝統工芸品は質が良いものが多いが、商品展開先の生活様式に馴染まないケースが見られることから、テストマーケティングや、見本市でのプロモーション後のフォローアップなどを通じ、販売市場のニーズや生活様式を踏まえた商品開発を行うことが必要であること、
- ② そのため、メゾン・ワでは、単に日本の伝統工芸品などをフランスの消費者に売るだけでなく、日本の事業者の販路開拓・新商品開発の支援を行なっていること、
- ③ 全国各地の製品を扱っているが、中でも富山県の伝統工芸品については、高岡市を中心に多くの事業者の商品を取り扱っていること、などについて説明をいただいた。

○ これに対し、石井知事から、塩川氏のお話のとおり、折角、見本市に出展しても、その後のフォローがうまくいかず、実際の取引につながらないケースも多く、現地の目線で販路開拓・新商品開発を支援いただけることは大変ありがたい。富山県でも、比較的若い人たちを中心に伝統の技を大切にしつつも新しい感覚で伝統工芸品の製作や海外販路開拓に取り組む動きが活発になっており、先日もウラジオストクにおいてシマタニ昇龍工房の島谷好徳さんに「すずがみ」の実演をしていただいたところ、非常に評判が高かったことなどを紹介した。

○ その後、塩川氏の案内により店内を視察した。フランス人デザイナーとのコラボレーション(アトリエ匠プロジェクト)により誕生した「漆器くにもと」製作の漆塗りインテリア家具、「モメンタムファクトリーOrii」製作の真鍮プレートに加え、能作の錫製品や、山口久乗のおりんなど、高岡市の伝統工芸品等5社21点が展示されていた。塩川氏によれば、シンプルなデザインで実用性も高く、また製品の背後にある歴史や精神性なども感じられるこれらの作品は、フランス人からの評価が非常に高いとのことであった。

○ 石井知事から、高岡をはじめ県の工芸品を多く扱っていただいていることに謝意を表するとともに、県としては、総合デザインセンターの充実強化等による新商品開発の促進、中小企業の販路開拓の支援、匠の技の後継者育成等を積極的に推進したいと考えている。塩川氏には、今後とも、県内の伝統工芸品等のPRや販路開拓、新商品開発等にお力添えをいただきたい旨、お願いしました。



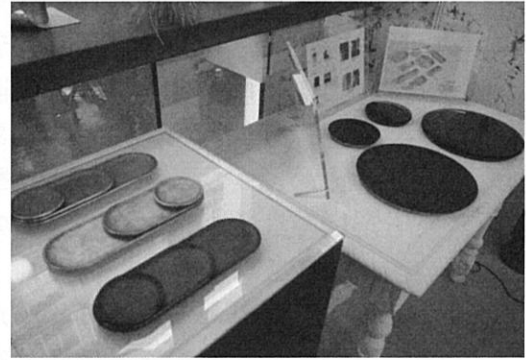
塩川氏からの説明



店内視察の様子



店内に展示されていた高岡などの工芸品(1)



店内に展示されていた高岡などの工芸品(2)

8月9日（水）バーゼル／スイス

(1) バーゼル大学副学長等との懇談

- ア 日時 平成29年8月9日（水）13:30～14:40
- イ 場所 バーゼル大学（バーゼル・シュタット州）
- ウ 県側 石井知事、中井（一社）富山県薬業連合会長、高津薬事研究所所長、
蔵堀県観光・交通・地域振興局長ほか県随員
- エ 相手方 コンスタブル副学長、フヴィラー薬学部教授、セングスタング博士
- オ 内容



コンスタブル副学長とのご挨拶



会談の様子（左から石井知事、コンスタブル副学長、フヴィラー薬学部教授、セングスタング博士）

- コンスタブル副学長から、富山県からの訪問に感謝するとともに、意見交換ができることを大変喜んでいるとのご挨拶があった。
- その後、石井知事から、①8年前にバーゼルを訪問してバーゼル・シュタット州、バーゼル・ラントシャフト州との間で協定書を交わして以来、医薬品産業の振興に力を入れ、2015年の医薬品生産金額が10年前の約2.8倍の約7,300億円と全国1位となったことから、これまでの交流の取組みに対する謝意を表したいこと、②今後とも、バーゼル地域とウインウインの関係で、更なる交流の促進を図りたいと考えており、ご理解とご協力をいただきたいことなどのご挨拶を行った。
- 引き続き、石井知事から、①富山県や富山大学とバーゼル大学との交流を通じて、人的ネットワークの構築やモチベーションの向上が図られ、大変効果があったこと、②日本では、本年2月に「地方大学の振興等に関する有識者会議」が設置され、一定以上の高い評価が得られる産学官のプロジェクトに対し、国が財政支援する方向となっており、富山県では、医薬品産業の振興と首都圏等の学生を対象にした実践的な教育プログラムの提供に取り組む「くすりのシリコンバレー TOYAMA」創造コンソーシアム（案）を提案したこと、③高津所長と相談し、来年5月に県薬事研究所の中に高度な分析機器等を集中的に整備した「未来創薬開発支援分析センター（仮称）」を開設し、バイオ医薬品等の付加価値の高い医薬品の開発を支援することとしていること、④今年4月、富山県立

大学に工学部では全国で初めて医薬品工学科を設置したこと、⑤アメリカのFDAに相当する日本のPMDAの北陸支部とアジア・トレーニングセンター研修所が本県に設置されたことなど、本県の医薬品産業に関する最近の動きについて説明を行った。

○さらに、知事からバーゼル大学に対し、①来年8月下旬に富山で開催するジョイントシンポジウムに、バーゼルから従来以上に研究者の方々に来県いただき、グローバル人材を育成するため、そのうち何人かの教授や研究者に県内大学生はもとより東京から本県で研修を受けたい学生向けに講義などをしていただきたい、②本県とバーゼルとの更なる交流を促進するため、新たに富山県立大学とバーゼル大学との間で学術交流協定を締結したい、との提案を行った。

また、学術交流協定の締結に関連し、現行の富山大学大学院理工学研究部とバーゼル大学理学部との協定が2019年1月に期限切れとなるが、遠藤学長にあらかじめご相談した上で、富山大学は今後も継続・充実していきたいとの考えであることをお伝えしました。

○これに対し、バーゼル大学のコンスタブル副学長より、①富山とバーゼル大学は取り組む方向性が似通っており、お互い得るものがあること、②医薬品生産金額が10年間で2.8倍になるなど、富山県医薬品産業のめざましい発展の実績に対し祝意を表すること、③富山県とバーゼル大学との交流は良い協力関係ができており、今後も関係を強化し継続していきたいこと、④現行の富山大学大学院理工学研究部とバーゼル大学理学部との協定が2019年1月までであることから、富山県と同様、今後、継続について準備を進めるための機会を望んでいること、⑤来年の富山でのシンポジウムにあわせた、バーゼル大学による講義については、技術革新も進んでおり、バーチャルでの講義を含め検討したいこととの回答があった。

○石井知事からは、①富山大学とバーゼル大学の交流促進について好意的なご返事をいただきうれしく思っていること、②新たに県立大学とバーゼル大学との協定を締結することと合わせてそれぞれ前向きに実施する方向で調整・準備したいので窓口となる方を定めていただきたい旨、要請しました。なお、本件については他の案件と合わせ本年9月に県くすり政策課の班長などを派遣する旨、お話ししました。

○コンスタブル副学長から、富山大学との協定の延長・強化及び県立大学とバーゼル大学との新たな協定に係る窓口については、現場をよく知っているフヴィラー薬学部教授とするとの言明がありました。

○またフヴィラー教授からは、今日、双方が同じ方向へ向かうことを意思確認できたことから、今後ともよろしくお願ひしたいこと、また、新たな協定に関して、現在の大学の状況を踏まえ、進めていきたいとお話がありました。

○終わりに記念品として、石井知事からコンスタブル副学長に対し、高岡漆器塗分パネル「立山にチューリップ」を贈呈しました。



コンスタブル副学長へ記念品贈呈

- ・なお、会談に先立ち、ファーマセンター（バーゼル大学薬学部）を、中井県薬業連合会会長、高津所長などと一緒に訪問し、フヴィラー教授から研究内容等について説明を伺い、その後、研究室をご案内いただきました。

研究室では、質量分析計や微量分析装置、物質の構造を把握できるX線構造解析装置、細胞内の薬物の所在を明らかにする高精度な顕微鏡等について説明がありました。

また、大学院生（博士課程）や博士研究生の紹介がありましたので、私から、若手研究生を激励しました。



製剤研究室見学



若手研究生を激励

- ・その後、バーゼル大学のバーゼル薬歴史博物館を訪問し、フラビオ・ヘイナー学芸員から案内があった。

博物館は、今年が開館100周年記念の年であることやファーマセンターが設置される1999年までは、バーゼル大学薬学部であったことなどの説明があった。館内では、ヨーロッパで薬として使用されていた、植物や動物、人工物（魔術）の展示説明があり、病気に対し、様々な方法で対応していたことがよく理解できました。

また、絹織物の染料技術から、化学合成の技術、さらには医薬品の開発技術へとイノベーションが進められてきた歴史についても説明があり、バーゼルの医薬品産業発展の経緯についても理解を深めることができました。



薬歴史博物館中庭



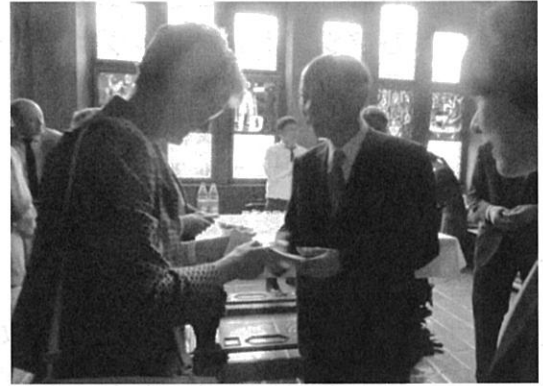
薬歴史博物館館内

(2) バーゼル両州政府首脳等との懇談

- ア 日時 平成29年8月9日(水) 15:00~16:20
- イ 場所 バーゼル・シュタット州庁舎特別会議室
- ウ 県側 石井知事、中井(一社)富山県薬業連合会長、高津薬事研究所所長、
蔵堀観光・交通・地域振興局長ほか県随員
- エ 相手方 バーゼル・シュタット州政府：エンゲルベルガー保健省担当参事
バーゼル・ラントシャフト州政府：ペゴラロ知事
フヴィラー教授、野川夫妻、州政府関係者同席
- オ 内容



エンゲルベルガー参事とのご挨拶



ペゴラロ知事とのご挨拶



会談の様子(左から順にペゴラロ知事、エンゲルベルガー参事、石井知事)

- エンゲルベルガー参事から訪問歓迎の挨拶とともに、バーゼルと富山県は、ともにグローバルに活動する製薬企業があることやライフサイエンスの交流が進んでいる旨の発言があった。
- ペゴラロ知事からは、富山県からの訪問に感謝する挨拶とともに、両州は緊密な関係であり、ともに製薬企業の恩恵を受けているとの発言があった。
- 石井知事からは、①8年前にバーゼルを訪問して、両州と各々協定(宣言)書を交わして以来、医薬品産業の振興を図る一環として、富山・バーゼルジョイ

ントシンポジウムの開催やバーゼル大学と富山大学の交換留学生の派遣、両県州の企業による新商品の共同研究開発などに力を入れてきたこと、②こうしたこともあって、2015年の医薬品生産金額が10年前の約2.8倍の約7,300億円と全国1位となったこと、③これまでの両州政府の交流の取組みに対して感謝申しあげるとともに、更なる交流の促進を図っていききたいことについて、ご挨拶を行った。

○引き続き、石井知事から、①富山県とバーゼル地域が協定を締結して以降、医薬品産業の交流以外にも、野川ご夫妻のご尽力により芸術文化の交流も活発に行われてきたこと、②アメリカのFDAに相当する日本のPMDA北陸支部及びアジアトレーニングセンター研修所が本県に設置されたこと、③来年5月に県薬事研究所内に高度な分析機器等を集中的に整備した「未来創薬開発支援分析センター（仮称）」を開設し、バイオ医薬品等の付加価値の高い医薬品の開発を支援することとしていること、④今年4月、富山県立大学に工学部では全国で初めて医薬品工学科を設置したことなど、本県の医薬品産業に関する最近の動きについて説明を行った。

○さらに、石井知事から両州政府に対し、①バイオ医薬品の研究開発の促進や大学間交流の強化等、8年前の協定締結時と本県と両州を取り巻く環境が変化していることを踏まえ、企業・民間によるバイオ技術交流に対する支援や大学の交流の推進など、現在の協定書を充実させ、これまで以上に両州の交流を促進していききたいこと、②来年8月下旬に開催するシンポジウムに大学や企業の研究者のみでなく、お二人をはじめ州政府の関係者の方々にもご来県いただきたいことの提案を行った。

○これを受けて、エンゲルベルガー・シュタット州政府保健省担当参事、ペゴラロ・ラントシャフト州知事からは、①本県の医薬品生産金額が全国第1位となったことに対し祝意を表すること、②シュタット州、ラントシャフト州、バーゼル大学として、富山県との交流をより充実して続けていきたいとの発言があった。

○また、来年8月下旬のシンポジウムにあわせた州政府の関係者の富山県への訪問については、今後検討したいとの発言があった。

○なお、エンゲルベルガー・シュタット州政府保健省担当参事からは、PMDAの支部が富山県に設置され、国際的に貢献・協力されていることは興味深いとの発言があった。

○石井知事から、前向きなお返事をいただきうれしく思う、9月に富山県くすり政策課の班長がバーゼルを訪問する予定であり、実務者同士で、富山県とバーゼル両州の協定書の充実、大学間の協定書の継続、充実等について検討し、進めたいとお話しました。

○終わりに記念品交換として、エンゲルベルガー保健省担当参事及びペゴラロ知事から石井知事に対し、記念品（バーゼルの歴史アルバムなど）が渡され、石井知事からエンゲルベルガー保健省担当参事に対し高岡漆器パネル「立山に雷鳥貝入」、ペゴラロ知事に対し高岡漆器パネル「チューリップ貝入」を贈呈した。



記念品贈呈（シュタット州）



記念品贈呈（ラントシャフト州）

○引き続き、エンゲルベルガー・シュタット州保健省担当参事、ペゴラロ・ラントシャフト州知事をはじめ両州幹部の方々が参加されてのレセプションが行われ、飲み物や軽食をとりながら、医薬品産業や芸術文化の交流、バーゼルの歴史やまち並み、富山県の豊かな自然や美味しい食の魅力などの話題を中心に、関係者が和やかに歓談した。



ペゴラロ・ラントシャフト州知事やエンゲルベルガー・シュタット州保健省担当参事と歓談



関係者全員で懇談

8月10日(木) ツェルマツト／スイス

(1) ツェルマツト観光局長との意見交換

- ア 日 時 平成29年8月10日(木) 9:00~10:20
イ 場 所 グランド・ホテル・ツェルマツターホフ
ウ 富山県側 石井知事、高木会長、山田桂一郎氏、永崎TKK専務、小橋黒部峡谷鉄道社長ほか県内観光事業者、蔵堀県観光・交通・地域振興局長ほか県随員
エ 相手方 ダニエル・ルツゲン ツェルマツト観光局長
オ 内 容

○ 冒頭、ルツゲン局長より、石井知事をはじめ皆様の訪問を歓迎する、との挨拶を受けたあと、石井知事より、①富山県は3,000m級の立山連峰と3年前にユネスコが支援する「世界で最も美しい湾クラブ」への加入が承認された富山湾を有する、美しい山と海に恵まれた地域である、②近年、観光振興に努めてきた結果、例えば、立山黒部アルペンルートの外国人旅行者数は、13年前と比べ10倍以上の約24万人に増加したが、課題はまだ多い、③今後の更なる飛躍のため、観光地として世界で名高いツェルマツトでの取組みについて学び、参考にしたい、との挨拶を行った。

○ その後、ルツゲン局長から、事前に送付した質問表に基づき、ツェルマツト観光局の取組み等について、次のとおり説明を受けた。

(ツェルマツトの観光の現状について)

- ・ ツェルマツトの年間宿泊者数は約200万人で、国別では、全体の44%を占めるスイス国内からの宿泊者を除けば、特に、大きな割合を占める国はない。為替変動があっても、マーケットが世界中に分散しているため、ダメージを直接受けることが少ない
- ・ 1日あたりの観光消費額は、オランダ140スイフラン(約1万5千円)、スイス140スイフラン(約1万5千円)、ドイツ170スイフラン(約1万9千円)、フランス180スイフラン(約2万円)、イタリア180スイフラン(約2万円)、米国270スイフラン(約3万円)に比べて、日本人が340スイフラン(約3万8千円)で高くなっている

(ツェルマツト観光局について)

- ・ ツェルマツト観光局の財源の多くは、宿泊者が支払う宿泊税と、企業が支払う観光促進税であり、前者はインフォメーションやインフラ整備のため、後者はマーケティングのために活用するというルールが決められている
- ・ ツェルマツト観光局の主な業務はマーケティングであるが、それ以外にも観光客への情報提供、様々なイベントの開催なども行っている

(マーケティングについて)

- ・ 以前は、国別・地域別のマーケティングを行っていたが、近年は、ツェルマツトを訪れる目的別のマーケティング(①スポーツ・スキーヤー、②トレッキング、③家族連れ、④マツターホルン、⑤マウンテンバイク、⑥国際会議等)を行っており、これにより商品開発がよりの確に行えるようになった

- ・観光局の年間予算は8～9百万CHF(約10億円)であり、職員は35名、うち18人がマーケティングに従事している
- ・ここ2年の間に、デジタル化が急速に進んでいる。観光局のみならず、ツェルマット内の各事業者がデジタル化に対応する必要があることから、イー・フィットネスというトレーニングツールを開発した。これにより、各事業者がインターネットの効率的な活用方法を習得することができる
- ・大手のインターネット宿泊予約サイトに、ツェルマットの宿泊予約を全て任せるとはリスクがある。このため、ツェルマット独自の宿泊予約サイトを立ち上げたところ、現在は宿泊者の10%がこのサイトを経由した宿泊者であり、今後も伸びることが予想される
- ・観光客のデータ収集は、顧客ニーズの把握の観点からも重要であるが、情報を収集される側にとっては抵抗があるもの。このため、なるべく抵抗なく情報収集する手段として、例えば、来年には駅に人型ロボット(日本製)を配置し、観光客に楽しんでもらいつつ情報収集を行う予定としている

(観光地域づくりについて)

- ・富山県には、観光以外の産業もあると思うが、ツェルマットは全ての産業が観光に依存しているので、ツェルマットの人たちは、どうすれば観光業がよくなるか常に考えており、我々にとって非常に仕事がしやすい環境である
- ・観光業は様々な業種の事業者が参画しており、事業者間の連携が非常に重要である。このため、観光関連事業者が参加する委員会や戦略会議を設置し、関係者が合同で戦略立案・観光地域づくりを進めている

(その他)

- ・ツェルマットのブランディングは、世界的に知名度の高い「マッターホルン」が軸。マッターホルンをイメージした様々な製品を販売しているほか、商標を守る活動も行っている
- ・ツェルマット観光局のような地域レベルでのDMOに加え、国レベル、州レベルでのDMO活動も行われているが、現状では、十分な連携が取れているとは言いがたい。場合によって、例えばイベントの際などに、緩やかな形で任意に連携している

○ その後、石井知事より、①観光局とツェルマット村との関係、②ツェルマットの観光戦略の最終的な意思決定権者について質問し、それぞれルッゲン局長から以下のとおり回答があった。

- ① 観光局長は役員会において選出され、役員会にはツェルマット村長がメンバーとして入っている。そういう意味において一定の影響力はあがるが、あくまで観光局は行政とは独立した組織であり、行政の影響力は限定的である
- ② ツェルマットの観光戦略は、様々な業界の代表者からなる戦略会議において決定されるが、最終的な意思決定は各事業者に委ねられている。例えば、戦略会議において新たなケーブルカーが必要だという方針が出たとしても、実際に新設するかどうかの判断は、ケーブルカー事業者が行うこととなる



ルッゲン観光局長と握手し懇談



ツェルマツ観光局の取組みについて
説明するルッゲン観光局長

(2) ブルガーゲマインデ (地域共同体) 幹部との意見交換

ア 日時 平成29年8月10日(木) 10:20~11:15

イ 場所 グランド・ホテル・ツェルマッターホフ

ウ 県側 石井知事、高木会長、山田桂一郎氏、永崎TKK専務、小橋黒部峡谷鉄道社長ほか県内観光事業者、蔵堀県観光・交通・地域振興局長ほか県随員

エ 相手方 フェルナンド・クレメンツ書記 (事務局長)

オ 内容

○ 冒頭、クレメンツ書記より、①ツェルマットと同様に山岳観光地として有名な富山県から石井知事はじめ皆様をお迎えすることができ、非常に嬉しく思っている、②2週間前に富士山に登ったが、次に日本を訪れる際は立山黒部アルペンルートを訪れたいと考えており、大変楽しみにしている、との歓迎のご挨拶をいただいた。

○ その後、事前に送付した質問表に基づき、クレメンツ書記より、ブルガーゲマインデの歴史や役割、組織などについてご説明いただいた。具体的には、

(ブルガーゲマインデについて)

- ・ブルガーゲマインデは、1618年に、住民たちがお金を出し合って、当時ツェルマットを支配していた司教から土地を買い取り、その土地を守っていくために設立されたもの
- ・それからはばらくは、ツェルマットは非常に貧しい村だったが、19世紀半ばにマッターホルンをはじめとするアルプスへの登山を目的とした観光客が増加した。これに併せてブルガーゲマインデもホテルの建設・運営に乗り出し、本日の会場となっている5つ星ホテルのグランド・ホテル・ツェルマッターホフも、1879年にブルガーゲマインデが建設したもの
- ・現在、ブルガーゲマインデの会員は約1,500人であるが、会員になるためには、①先祖が会員であるか、あるいは、②ツェルマットに少なくとも10年以上継続して住んでいる住民が、4万スイスフラン(約450万円)の費用を添えて申請し、既存のメンバーの投票により認められれば、会員になることができる
- ・ブルガーゲマインデは、4年ごとに会員によって選出される7名の代表者によって運営されている。ホテル(総ベッド数300)やレストラン(総席数5,520)の運営のほか、森林や牧場の管理も行っているが、これは景観を保つだけでなく、雪崩の防止の意味もある

(ツェルマット村について)

- ・ツェルマットは長らく貧しい農村であったが、観光客の増加に伴い外部からの定住者も増えるようになった。これを機に、従来ブルガーゲマインデが担っていた機能を分割する形で村役場が設置され、ブルガーゲマインデは土地の管理や福祉、文化振興を担当し、村役場は、教育や、道路などのインフラの整備等を担うこととなった
- ・現在、村役場は、4年に一度の住民選挙によって選出される7名の役員によっ

て運営されている

(ツェルマットの観光戦略について)

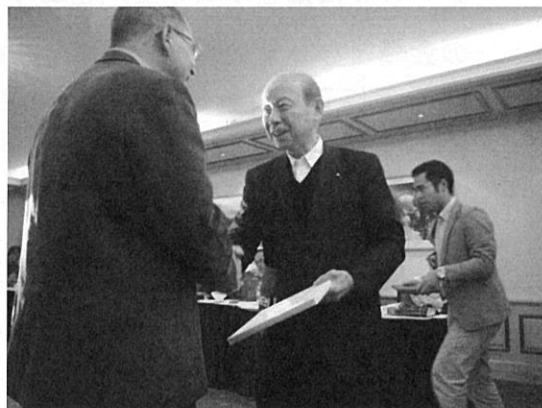
- ・ ツェルマットの産業は、ほぼ100%観光業に依存している
- ・ ツェルマットの観光戦略を決定する場である戦略会議には、村役場とブルガージェマインデの代表者も参加している
- ・ ツェルマットのセールスポイントは、①マッターホルンがあること、②電気自動車のみが走行を許される（ガソリン車等は走行できない）カーフリー・リゾートであること、③冬季も含め365日オープンしていることである
- ・ また、他の地域にはないユニークな点として、ツェルマットにあるホテルやレストランを含むあらゆる資産の90%以上を住民が所有している
- ・ ツェルマットのブランディングメッセージは「Your best mountain experience ever... and ever and ever again（あなたにとってこれまで最高の山の経験であり続ける）」

(観光業の人材育成について)

- ・ スイスにはデュアルシステムという独自の教育システムがあり、通常の小中高・大学というルート（全体の約2割）のほか、中卒で実習生として現場に就職するルート（全体の約7割）があり、観光業においてはこれが非常にうまく機能している
- ・ また、ヴァレー州では、Ritzy（リッツィ）という観光業従事者を対象とした独自の追加的な教育機関があり、また、観光局が提供するイー・フィットネスや、それぞれのホテルにおいても独自のトレーニングプログラムを持っており、人材育成には非常に力を注いでいる



クレメンツ書記による説明の様子



クレメンツ書記と握手し懇談

(3) ツェルマツト視察

ア 日時 (1) 平成29年8月10日(木) 11:30~17:00
(2) 平成29年8月11日(金) 9:00~12:00

イ 場所 ツェルマツト市内

ウ 参加者 石井知事、高木会長、山田桂一郎氏、永崎 TTK 専務、小橋黒部峡谷鉄道社長ほか県内観光事業者、蔵堀県観光・交通・地域振興局長ほか県随員

エ 内容

○ JTIC、SWISS 代表で、ツェルマツト観光局での勤務をはじめ長らくツェルマツトの観光に携わってこられた山田桂一郎氏のコーディネートのもと、2日間にわたりツェルマツトの視察を行った。

ゴルナーグラート鉄道 (8月10日)

ツェルマツト観光局長及びブルガーゲマインデ書記との意見交換終了後、ツェルマツトの町中と標高3,089mのゴルナーグラート展望台の約9kmを約40分で結ぶ山岳鉄道であるゴルナーグラート鉄道に乘車した。車窓からはツェルマツトの美しい山々や街並み、羊や牛などの放牧の様子を眺めることができた。車内では英語、ドイツ語のほか、日本語でのアナウンスも流れ、山頂でのアクティビティを楽しむ人たちのため、マウンテンバイクやスキー板のラックも設置されていた。



ゴルナーグラート鉄道



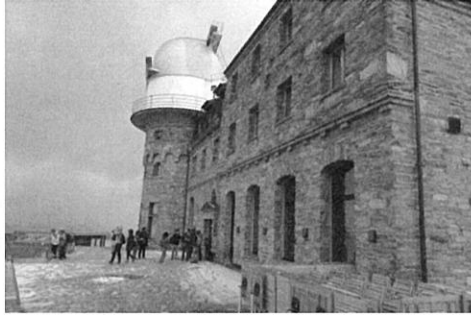
山田桂一郎氏から説明を受ける
石井知事と高木会長



車両内の
バイク・スキーラック

クルムホテル (8月10日)

クルムホテルは、ゴルナーグラート鉄道の終着駅にある、マッターホルングループ（ブルガーゲマインデの100%出資）が所有する3つ星ホテルであり、スイスアルプスの中で最も標高の高い（約3,100m）ホテルとして知られる。客室数は22室で、室内はシンプルながら快適な作りとなっており、窓からはマッターホルンなどの4,000メートル級の山々を望むことができる。また、各部屋には、クルムホテルから望むことができる山々の名称と標高(部屋番号)が付けられており、訪れた観光客の興味を引く仕掛けとなっている。また、同ホテルには、テラス席を供えたレストランや、「ここでしか買えない」オリジナルグッズを販売するショッピングモールが併設されており、訪れた観光客の消費を喚起するとともに、天候が悪い場合でも、屋内で楽しく過ごすことが可能となっていた。



クウムホテル



客室の様子



各部屋には山の名前と標高（部屋番号）
が付けられている



部屋からの眺望

クウムホテルの周辺は展望台となっており、当日は、幸い、雨は時折ぱらつく程度であったが雲の多い天候でマッターホルン（4,478m）は6合目位までしか眺望できなかったものの、オーバー・ガベルホルン（4,073m）など4,000m級の山々や迫力ある氷河をパノラマのように楽しむことができた。



ゴルナーグラート展望台から望む氷河



展望台視察の様子

ゴルナーグラート鉄道の幹部との懇談（8月10日）

クウムホテル内のレストランにおける昼食の際、ゴルナーグラート鉄道の親会社の役員であり、同鉄道のマネジメントを担当しているイヴァン・ファマッター氏にご同席いただいた。同氏からゴルナーグラート鉄道の概要について説明を受けた後、石井知事から立山黒部アルペンルートや美しい富山湾など本県の多彩な観光資源を紹介するとともに、黒部峡谷鉄道の小橋社長からは、黒部峡谷鉄道の概要と魅力を説明していただいた。意見交換の中では、黒部峡谷鉄道とゴルナーグラート鉄道との将来的な連携についても話が及び、最後に石井知事からファマッター氏に対し、来日の機会があれば、富山県にもお立ち寄りいただきたいとお話したところ、今後、検討したいとのことであった。



ファマッター氏との会談の様子



ファマッター氏と懇談

リッフェルアルプ・リゾート（8月10日）

クルムホテル視察の後、ゴルナーグラート鉄道にてツェルマット駅まで戻る途中にあるリッフェルアルプ駅（標高約2,200m）で下車し、5つ星ホテルの「ホテル・リッフェルアルプ・リゾート」を視察した。リッフェルアルプ駅から同ホテルまでは、徒歩でも行けるが、ゴルナーグラート鉄道の開通当時（1898年）の車両を模した専用のトロッコ電車で移動できるように配慮されており、宿泊客に特別感を与える演出となっている。また、ホテルの内装は上品かつ豪華で、ホテル内のカフェではピアノの生演奏が行われ、また、同じ敷地内の教会でも音楽の演奏会が催されるなど、山岳ホテルでありながら、高級志向の宿泊客を満足させるクオリティの高いホテルとなっていることがよく理解できた。



専用トロッコを降りてホテルへ



ホテル内部の様子

マッターホルン・グレーシャーパラダイス（8月11日）

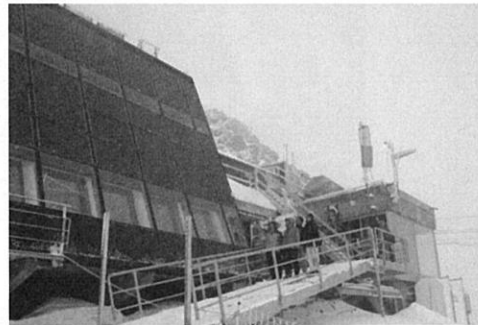
翌日（8月11日）の午前は、欧州で最も標高の高いクライン・マッターホルン展望台（標高3,883m）を有し、周辺では1年中氷河スキーを楽しむことができるマッターホルン・グレーシャーパラダイスを視察した。ツェルマットの町中から、ゴンドラとロープウェイを乗り継ぎ、わずか1時間程度で展望台まで到達することができる。展望台には、マッターホルン・グレーシャーパラダイスの魅力を紹介する映像が流れる上映室のほか、ここでしか買えないお土産品が数多く並ぶショップも併設されていた。

なお、ここでは、トイレを使用する際、2スイスフラン（約230円）が必要であるが、代わりにレシートが印刷され、このレシートを施設内の会計時に提示することで、同額分の金券として使用することができる。観光客にとっては結局プラスマイナスゼロであるが、2スイスフラン分として使用するにはそれ以上の買

い物が必要であるため、お客の消費行動が生じやすい仕掛けとなっている。



マッターホルン・グレーシャー・パラダイスに通じるロープウェイ



山頂のターミナルにはソーラーパネルが設置されている



展望台に併設されたショップの様子



ここでしか買えない限定品が並ぶ

(4) ツェルマツト側主催による歓迎レセプション

- ア 日時 平成29年8月10日(木) 18:00~19:30
- イ 場所 グランド・ホテル・ツェルマツターホフ
- ウ 県側 石井知事、高木会長、山田桂一郎氏、永崎TKK専務、小橋黒部峡谷鉄道社長ほか県内観光事業者、蔵堀県観光・交通・地域振興局長ほか県随員
- エ 相手方 ロミー・ビネー・ハウザー ツェルマツト村長
アンドレアス・ビネー ブルガーゲマインデ会長
フェルナンド・クレメンツ ブルガーゲマインデ書記
ダニエル・ルッゲン ツェルマツト観光局長

オ 内容

- 調査団のツェルマツト訪問を歓迎するため、ツェルマツト側主催の歓迎レセプションが開催され、石井知事、高木会長、山田桂一郎氏はじめ団員全員が参加した。
- まず、ツェルマツト村のビネー・ハウザー村長から、富山県はツェルマツト村と同様に、美しく素敵な山々に囲まれた地域であると聞いており、その富山県から石井知事をはじめ皆様をお迎えすることができ、大変うれしく思っている、との歓迎のあいさつを受けた。
- また、ブルガーゲマインデのビネー会長からは「日本は景観が美しく、人々がとても親切な国であり、その日本から訪問団をお迎えできてうれしく思う」、ツェルマツト観光局のルッゲン局長からは「富山県とツェルマツト両方の将来のため、今後も意見交換や交流を続けていきたい、今日はそのスタートの日にしたい」とのご挨拶をいただいた。



ビネー・ハウザー村長と握手する石井知事



ビネー会長の挨拶

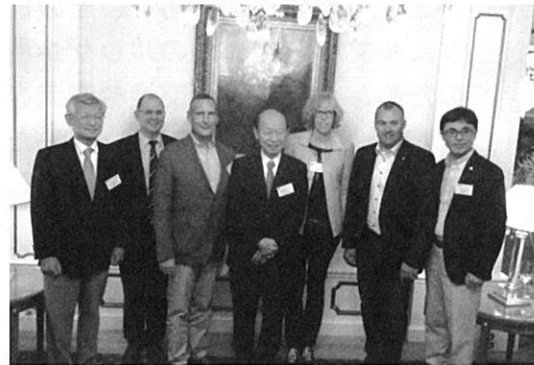
- 次に、石井知事から、①夏のハイシーズンで大変忙しい中、歓迎のレセプションを開催していただき心から感謝している、②富山県では、観光振興に力を注いできた結果、立山黒部アルペンルートを訪れる外国人観光客が13年前の約10倍に増加するなど成果が表れているが課題も多い、③今後とも、更なる高みを目指すため、3,000m級の立山連峰に加え、3年前に「世界で最も美しい湾クラブ」への加盟が承認された富山湾の魅力も合わせ、より一層の観光振興に取

り組んでいきたい、④そのために、世界トップレベルの観光地であるツェルマットの取組みを学ばせていただくとともに、今後も末永く交流を続けさせていただきたい、との挨拶を行った。

- その後、レセプションは終始和やかな雰囲気で行進し、富山県側の参加者とツェルマット側の参加者との間で、当日の視察の結果も踏まえ、活発な意見交換が行われた。
- 石井知事からビネー会長にブルガーゲマインデの多面的な活動に敬意を表させていただいた上で、家族経営で後継者のいないホテルの買収を含め、この10年で100億円強の投資をしているとのクレメンツ書記の説明があったが、随分意欲的ですと伺ったところ、「世界のトップレベルのリゾート地はお互いに競い合っている。常に先を見て事業展開をすることで、今のツェルマットの発展がある」とのお答えをいただき、在任20年（1期4年）のビネー会長の経験に裏付けられ、時代の先を見据えた経営姿勢に感銘を受けました。
- 懇談の結びに、高木会長より、①レセプションにご招待いただき大変感謝している、②それぞれ課題を抱えつつも、この素晴らしい観光地を作ってくれた皆さんの努力に感銘を受けた、とのご挨拶をいただいた。
- 最後にツェルマット村のビネー・ハウザー村長より、「今回の交流をきっかけに、今後とも是非お互いの経験を共有し、意見交換や交流を続けていきたい」とのご挨拶をいただいた。



ルッゲン観光局長の挨拶



歓迎レセプションでの記念撮影

8月11日(金)・12日(土) クールマイユール／イタリア、シャモニー／フランス

(1) モンテ・ビアンコ・ロープウェイ社長等との夕食懇談会

ア 日時 平成29年8月11日(金) 18:30～21:00

イ 場所 ラ・パルド(クールマイユール)

ウ 県側 石井知事、高木会長、山田桂一郎氏、永崎TKK専務、小橋黒部峡谷鉄道社長ほか県内観光事業者、蔵堀県観光・交通・地域振興局長ほか県随員

エ 相手方 ロベルト・フランチェスコニ モンテ・ビアンコ・ロープウェイ社長
ヴァレリア・デ・ヴェッキ モンテ・ビアンコ・ロープウェイ広報担当

オ 内容

○ 冒頭、石井知事より、①フランチェスコニ社長及びヴェッキさんには、夏のハイシーズンでお忙しい中、ご対応いただき感謝していること、②本県を訪れる外国人観光客は、アジア人を中心に年々増加しているが、欧米豪をはじめ更に多くの方々に来ていただくためには、より魅力的な施設の整備や観光客のニーズに応じた人的サービスが必要であること、③このため、今後、新たなロープウェイの整備を行うことも検討しており、その参考とするため、世界で注目されているスカイウェイ・モンテ・ビアンコについて種々ご教示いただきたいこと、などの挨拶を行った。

○ その後、石井知事ほか訪問団員の質問に答える形で、フランチェスコニ社長から、スカイウェイ・モンテ・ビアンコについて説明をいただいた。具体的には、

① 昨年1年間にロープウェイに載せた利用者数は約27万人であり、また、スキーを目的にクールマイユールを訪れる観光客数は約40万人であること

② 総建設費は約1億4,000万ユーロ(約185億円)であり、その90数%はヴァッレ・ダオスタ州が拠出しており、残りの数%が色々な経緯で民間出資となっていること。また、モンテ・ビアンコ・ロープウェイ社も、出資額の90数%は同州の出資によっており、ロープウェイの運営やメンテナンスを担っていること

③ 建設には環境や景観をはじめとする各種の許可(ほとんどが州政府の許可)を得る必要があり、そのための関係各所との調整等に約10年、その後、建設に約4年を要したこと

④ スカイウェイ・モンテ・ビアンコは、最先端の技術をつぎ込んで完成したものであり、例えば、(1)ゴンドラには床暖房を入れ凍結を防ぐとともに、窓には特殊なガラスを用いて曇らないようにしていること、(2)山頂駅付近にも浄水施設を設置しており、夏のピーク時期でも環境汚染が生じないこと、(3)ロープウェイの運営に伴い生じるエネルギーをターミナル施設の給湯に活用していること

⑤ 安全性確保については、(1)雪崩に伴う風による被害を軽減するため、ターミナル施設は航空力学を用いた設計を行っていること、(2)電源がストップ

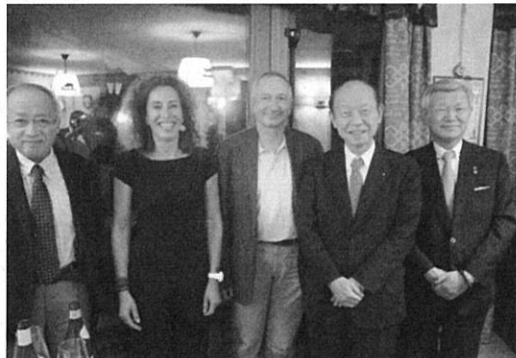
した場合に備え、2つ目の予備電気モーターがあり、それも使えなくなった場合は、3つ目に水力発電（自家発電）モーターも準備している。さらに、それも使えない場合は、ロープウェイに並行して走るロープを使って利用者を最寄り駅に連れ戻すことができる。このため、オープンから2年間、悪天候を理由とした運行停止は一度もないこと

- ⑥ 中間駅の映画館（約150席）は会議室としても利用可能であり、民間企業によるイベント等の開催の需要も予想以上に高いことから、新たな映画館（会議室）（約80席）を建設中であること。また、企業による利用はPR効果が高いことに加え、イベント等出席者のホテル利用により地域経済への貢献につながる事
 - ⑦ スカイウェイ・モンテ・ビアンコ建設のプロジェクトは、ほぼイタリア人のみで行ったものであり、フランチェスコニ社長は、プロジェクトの構想段階から関わっていること
- などについて説明をいただいた。

○ 夕食懇談会は、石井知事はじめ団員からの活発な質問に対し、フランチェスコニ社長から丁寧にお答えをいただき、非常に有意義なものとなった。



夕食懇談会の様子



フランチェスコニ社長らとの記念撮影

次に、エギーユ・デュ・ミディ山頂駅を出発し、フランスとイタリアの国境にあるエンブロンネル駅（3,466m）へと向かうため、パノラミック・モンブラン・ゴンドラに乗車した。この3連のゴンドラは、切り立ったアルプスの地形を利用し、約5kmもの距離があるにも関わらず、支柱が1本も立てられていない。約35分の乗車の間、天候にも恵まれたため、目の前にはヨーロッパアルプス最高峰のモンブラン（4,810m）をはじめとする壮大な山々、眼下には広大な氷河や数多くのクレバス（割れ目）が広がり、まさに絶景と言うべき眺めであった。なお、短い時間ではあるが、遠くに「マッターホルン」を眺望することができました。



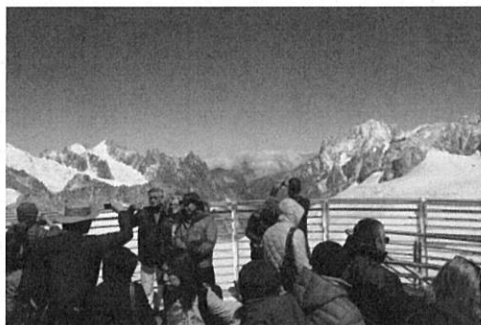
パノラミック・モンブラン・ゴンドラ



ゴンドラからの景色

ゴンドラ終着駅のエンブロンネル駅には、「360° テラス」と呼ばれる展望台や、ガラス張りの展望スペースが設置されているほか、天候が優れない場合でも施設内で快適に過ごせるよう、レストランに加え、周囲の山々で発掘された水晶を展示するスペースなどが設けられていた。

なお、エンブロンネル駅では、モンテ・ビアンコ・ロープウェイのフランチェスココーニ社長のお計らいにより、同社マーケティング担当のアリシアさんにお出迎えいただき、その後、山麓駅までの間、アリシアさんにご同行・ご案内いただいた。



360° テラス



水晶の展示室

エンブロンネル駅からは、いよいよスカイウェイ・モンテ・ビアンコに乗車し、中間駅（パヴィオン・デュ・モンフレティ駅）へと向かった。スカイウェイ・モンテ・ビアンコのキャビンは、80人乗りと大変大きく、360° ガラス張りである上、移動中に1回転するようになっており、どの位置に乗車しても眺望が良いように工夫されている。運行中も揺れが非常に少なく、また、乗降時にキャビンとターミナル駅との段差がないなど、前日のフランチェスココーニ社長のご発言のと

おり、最先端の技術を駆使したロープウェイであることを実感することができた。

中間駅（パヴィオン・デュ・モンフレティ駅）では、映画館（会議室としても使用可能）においてスカイウェイ・モンテ・ビアンコの建設までの過程をまとめた動画が上映されていたほか、ワイナリーや限定グッズを販売するショッピングエリア、広々としたレストランなどが設置されていた。また、駅の外には、世界中の高山植物を集めた植物園や、子供向けの遊び場も設けられており、観光客がロープウェイそのものに加え、中間駅での滞在も十分楽しむことができるよう配慮されていたことが大変印象に残った。



スカイウェイ・モンテ・ビアンコ



中間駅からスカイウェイ・モンテ・ビアンコと名峰モンブランを望む

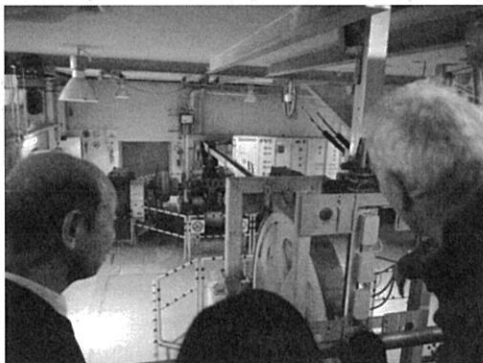


中間駅の映画館



中間駅外の子供向けの遊び場

その後、再度スカイウェイ・モンテ・ビアンコに乗車し、山麓駅（ポントラル・ダントレーブ駅）へと向かった。山麓駅では、モンテ・ビアンコ・ロープウェイ社のお計らいにより、ロープウェイの動力室を特別に見学し、担当技術者から説明をいただくなど、貴重な機会となった。



動力室見学の様子



山麓駅でアリシアさんとお別れ

